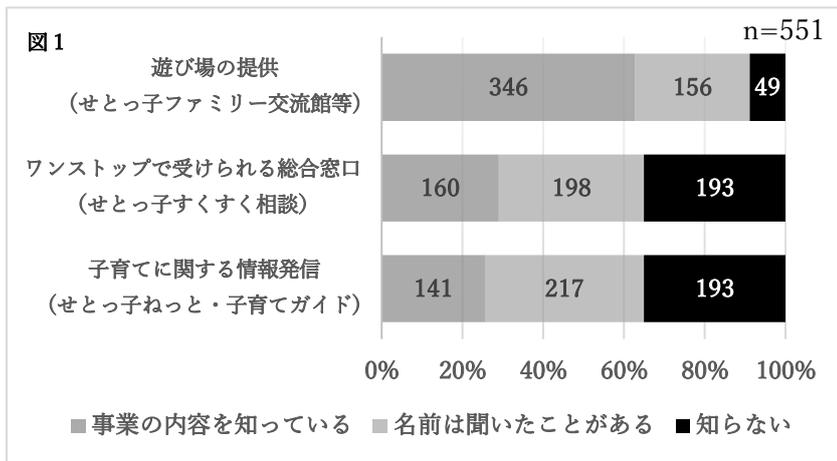


瀬戸市子育て総合計画にかかる職員向けアンケート結果

実施概要

総回答数 551件 回答率62%〔対象者882人〕
 回答期間 平成31年2月18日（月）～3月1日（金）
 対象職員 全正規職員（再任用職員及び社会福祉協議会職員含む）

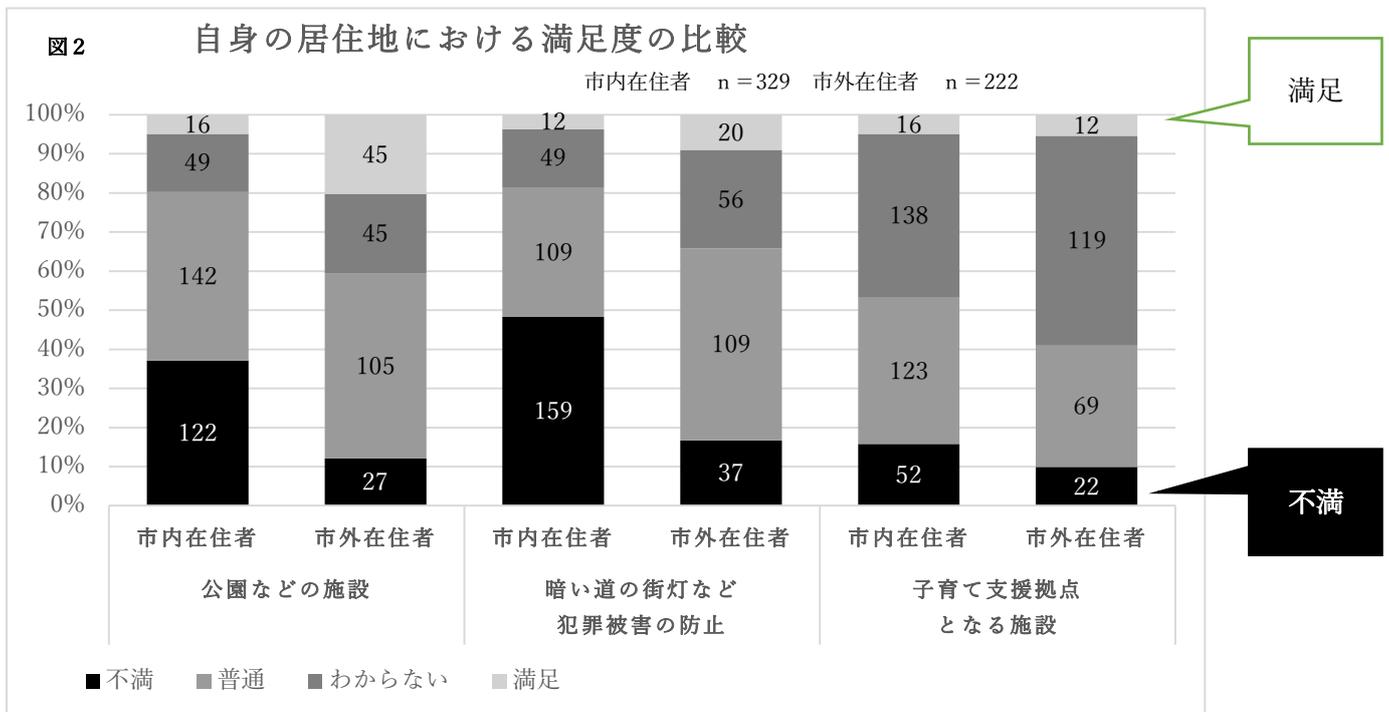
分析と考察 特徴的な結果をまとめると次のとおりとなります。



【問4 子育て支援事業の認知度について】

問4の事業の認知度を測る項目については、『遊び場の提供』が『名前は聞いたことがある』を含めると9割近い認知度であった。それに比較し、利用者が限定されず、多くの子育て世代に使用してもらおう事業である総合相談窓口・情報発信の認知度は低い結果であった。(図1参照) PRにより力を入れ、市民はもちろんのこと、職員に対しての事業認知度の向上を図る必要がある。

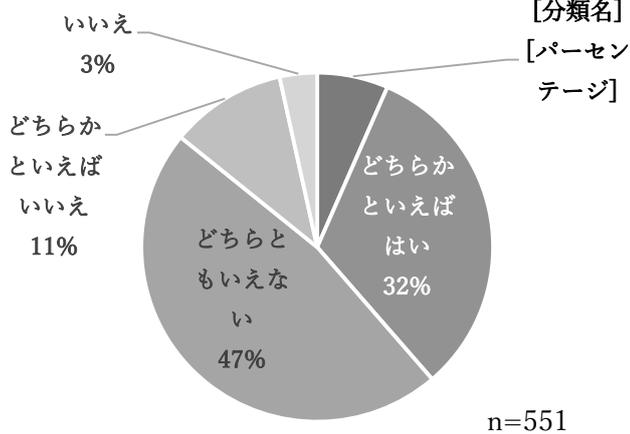
【問5 自身の居住地における子育て支援について】



問5の子育ての満足度を、市内在住職員と、市外在住職員で比較したところ、自身の居住地における、『公園などの施設』、『暗い道の街灯などの犯罪被害の防止』、『子育て支援拠点』に対する不満は市内在住者のほうが高い。満足度についても市外在住者のほうが高い傾向がみられる。(図2参照)

【問6 「瀬戸市は安心して子どもを産み育てることができる環境にあるか。」について】

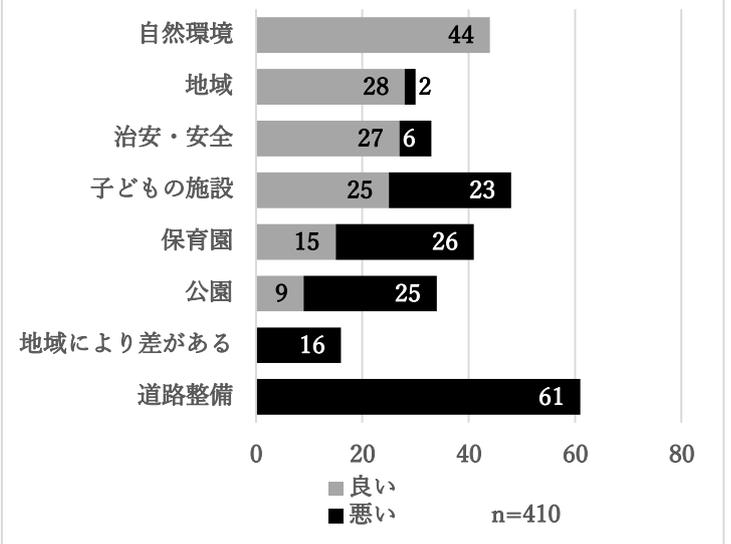
図3 問6 瀬戸市は安心して子どもを産み、育てる環境にあると思いますか。



問6全体として良い意見で見たとき、もっとも多いのが『自然環境』ついで、『地域』に関するものであった。意見の一例として、「地域で子どもを育てること（地域力や地域の見守り活動など）ができる」という意見があげられた。「自然環境」と「地域」の良さは瀬戸市の特色であるとともに、今後もPRしていくポイントであると考えられる。（図4参照）

問6の『瀬戸市は安心して子どもを産み、育てる環境にあると思いますか』という問いに対し、具体的な理由（記述式）の内容をカテゴリ別で大分し、解析した所、悪い意見の中では『道路整備』に関する懸念が多かった。意見の一例としては「自然が豊かであるが、道路が狭隘な地域が多く交通事故に不安がある。」などである。問5・問6を通して、悪い意見の多くは道路整備、子ども施設に集中しており、子どもの居場所づくりなど子どもにとっての安心安全なハード面の取り組みが求められていると考える。（図4参照）

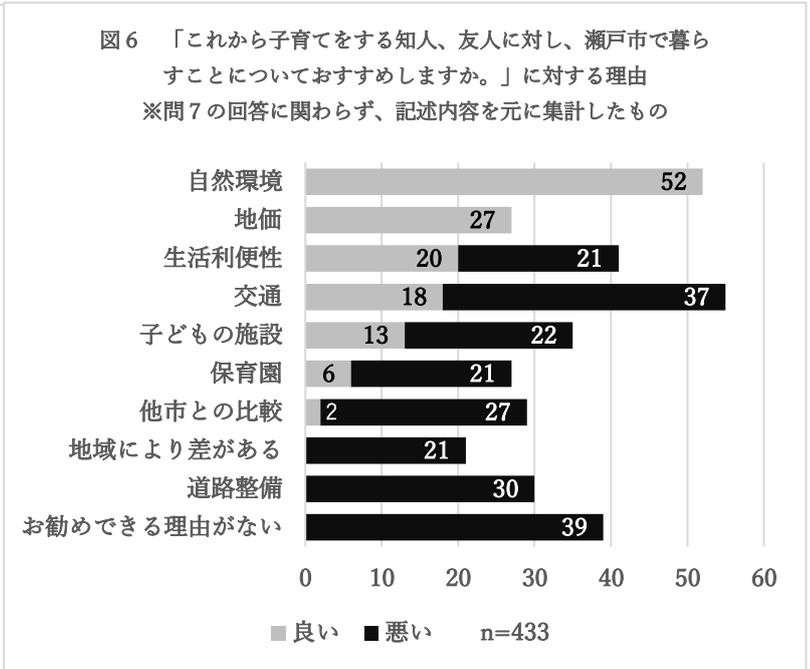
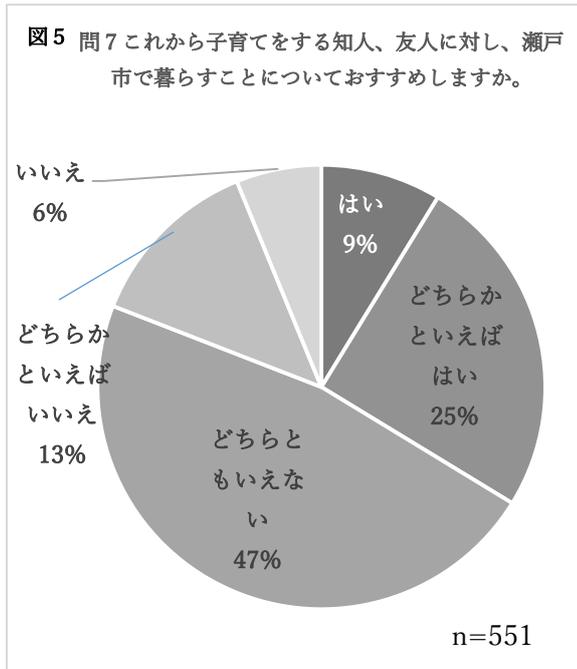
図4 「瀬戸市は安心して子どもを産み、育てることができる環境にあると思いますか？」に対する理由 ※問6の回答に関わらず、記述内容を元に集計したもの



※1 問6の『子どもの施設』に関しては良い意見と悪い意見がほぼ同数であった。良いと答えた内容としては「子育て支援施設が無料で利用できる」「こどもが遊べる場（児童遊園、せとっこ、プレイルーム）が4時くらいまでやっていて遊ぶ場が充実しているから」「子育てする母親へ向けての施設やイベントが多い」などがあげられ、現存施設の内容についてよい意見が多く見られた。逆に悪いと答えた内容としては「子育て支援のソフト事業については充実しつつあると感じるが、子どもの遊び場やスポーツ施設等のハード面の古さがあり魅力に乏しい。」「おむつ替えのスペースや授乳スペース等が充実していない。昔に比べて安心して遊べる環境も減っている気がする」「児童館などこどもが安心して遊べる施設が少ない」などがあげられ、老朽化や施設数についての意見がみられた。

『保育園』について良いと答えた内容としては、「保育園が充実している」、「様々な子育て、保育サービスがあるため」「瀬戸市の特徴を生かした保育やイベントを行っているから」などがあげられ、サービス、内容について良いと答える意見が多く見られた。逆に悪いと答えた内容としては、「保育園や一時預かりなどのサービスの供給不足」「待機児童について」「保育所入所が困難」などがあげられ待機児童に関する意見が多く寄せられた。

【問7 「これから子育てをする知人、友人に対し、瀬戸市で暮らすことについておすすめしますか。」について】



問7の『これから子育てをする知人、友人に対し、瀬戸市で暮らすことについておすすめしますか。』という問いに対し、具体的な理由(記述式)の内容をカテゴリ別で大分し、解析した所、良いと回答した意見では『自然環境』『地価(安い)』についての意見が多かった。(図6参照)

逆に、悪い意見の一例としては「交通の便があまりよくなく、大型のショッピングモール（一箇所で全てが揃うようなところ）がほとんどないため、利便性が高くないと思うから。」など薦め難いと答える意見に交通を懸念する意見が多かった。また、「お勧めできる理由がない」の意見が多い。(図6参照)

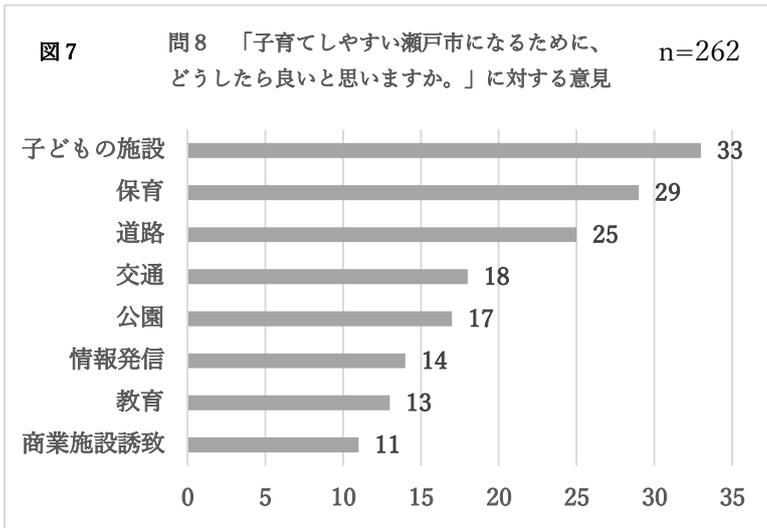
瀬戸市職員が良い点ないしは改善を指摘する意見よりも、お勧めできる理由がないという意見が多いことは大きな課題であると考えます。

※2 問7の『生活利便性』『交通』『子どもの施設』については、良い意見と悪い意見がそれぞれ一定数あった。『生活利便性』についての良い意見は「落ち着いた環境で子育てができる」「田舎と都会の間くらいでちょうどいいから」などが挙げられた。悪い意見としては「交通の便が悪い、商業施設が少ないなど生活するうえで支障がある」「魅力的なお店、整備が整っている市は他にたくさんあるため」「ショッピングモールなど代表的なものがないから」など商業施設の少なさなどがあげられた。

『交通』についての良い意見は「名古屋や豊田方面のアクセスも良く、地価も安い」「都心への利便性があることと地価等が低い」こと都心部へのアクセスの良さをあげる意見がほとんどである。「交通の便が不便であるから。車がないと生活が難しい」「交通の便が悪い。地域差が激しい」「交通が少し不便である。子どもが小さい間は困らないが、高校大学進学を考えると通学が不便」など、瀬戸市全域における交通網の脆弱さを挙げる意見が多く見られた。

『子どもの施設』についての良い意見は「ノベルティ子ども創造館や交流館、交通児童遊園など子どもと遊べる施設があるから」など既存施設について良いと答える意見がみられた。逆に悪いと答えた意見としては「図書館、プール、公園といったインフラ施設が他市に比べ見劣りし、市外の施設を利用」「子育てには不便はないが、子供が遊べる場所、楽しめる場所等が不足ないし、遠くにあるような気がするため」「各施設の設置場所がわかりづらく、駐車場も少ない。また施設内外も老朽化で魅力がない。」など施設のアクセスの悪さ、施設の設置位置における地域差、施設の老朽化などが挙げられた。

【問 8 『子育てしやすい瀬戸市になるために、どうしたら良いと思いますか。』について】



問 8 については多岐に渡る意見が寄せられた。(図 7 参照)記述式の内容をカテゴリ別で分類した所、中でも多かったのは、上記アンケート結果と同じくハード面に関わるもの(子どもの施設・道路・公園)等であった。(※ 1 ※ 2 参照)

また保育に関しても多くの意見があり、「待機児童をなくすために保育園を増やす」という単純な数の増加に対する意見だけではなく、「(保育士が)時短勤務など幅広い働き方ができるようにする。」というような保育士の働き方に関する意見も見られた。

【問 9 他市町村の魅力ある子育て施策について】

春日井市	<ul style="list-style-type: none"> ・「子はかすがい、子育ては春日井」宣言 ・手厚い子育て支援事業(妊産婦ケア・コミュニティバス・歩道整備・図書館・小学校内の学童他多数)
尾張旭市	<ul style="list-style-type: none"> ・「子育てしやすいまち」ということを第一に掲げ、プロモーションしているため、行政として力を入れていることがわかりやすい。 ・児童クラブと児童館が隣接・公園施設の充実 ・歩道整備・公園整備
小牧市	地域に子どもたちが集まる児童館が充実している
東郷町	18歳まで医療費無料、保育園増園
豊田市	鞍が池公園という動物園機能も有する大規模な公園施設。一部リフォームもしており、施設もきれいになっている。トイレなどを始め、公営施設が綺麗。
長久手市	<ul style="list-style-type: none"> 保育園施設の充実・安全な遊具のある公園 児童館イベントの充実(たより発行)
名古屋市	<ul style="list-style-type: none"> 公園の整備が進んでいることと、街中を歩行者・自転車専用道路が走っており、車道には歩道橋があるため車道を横断することがない。街の移動がスムーズで安心して外出できる。 トワイライトスクール(小学校1年生から6年生の児童を対象とした学校内の居場所、保険費用のみで参加でき、午後6時まで利用できる)

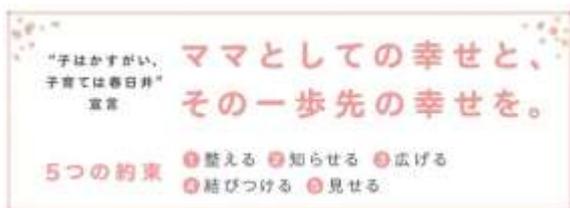
よい取り組みを行っている他市と比較したとき、ハード面の充実(尾張旭市・小牧市)は勿論だが、市全体の取り組み姿勢(春日井市の宣言・尾張旭市のプロモーション)については大いに学ぶ点がある。

担当部門の市職員が個々の事業の積極的な PR や内容改善していくことはもちろんのこと、瀬戸市全体が子育てをしやすい街づくりに取り組むことが必要なのではないかと考える。

職員向けアンケートを終えて

1. 宣言により市として力を入れている姿勢を示す。

春日井市が行っている「子育て宣言」や東郷町のの取り組みについては、大々的に宣言を打つことで対外的、内部的にも子育て施策について力を入れていることを示すことができるため、良い取り組みだと思った。



瀬戸市における子ども・子育ては、第6次総合計画の3つの柱の1つではあるが、他市ではホームページのトップにまず子育て重視の姿勢や宣言が鮮明にされており、それと比較すると瀬戸市の子育て重視は非常にわかりにくく、伝わりにくい。



2. シティプロモーションの強化

(1) 他市町村の魅力のある子育て施策を見たときに、瀬戸市でも既に実施している事業がいくつか挙がっていた。市役所の職員にも認知度が低い事業は市民にも認知度が低いと考えられ、すでに実施している事業のPRや情報発信により力を入れることが必要である。豊田市はLINEで子育て情報の配信を行っており、手軽に必要な情報を市民が得やすいよう工夫を行っている。いまの時代にあった情報発信を行い、PRを行う必要がある。



(2) 子育て施策の充実に合わせて、それを利用する子育て世帯や今後子育てを行う世帯の定住を促進する必要がある。愛知環状鉄道の中吊り広告などは多くの人が見るため効果が高いと思われる。

岩倉市では昨年末に名古屋駅のコンコースに岩倉市への定住をすすめるポスター掲示及びデジタルサイネージ（電子看板）の掲載をしていた。より多くの人が集まる名古屋駅に広告を貼ることは愛知環状鉄道の中吊り広告より効果が高いと思われる。瀬戸市に定住する人の一つの目的は一軒家を比較的安価で手に入れられることが瀬戸市の強みだと考えるため、同じ思いをもつ人へのPRや特典を考える必要がある。



3. 子ども・子育て支援施策の中の優先順位

プロモーションの重要性は疑いのないところだが、現在行っているベーシックな事業（保育など）を今後も推進していくことは非常に大切な事である。今回のアンケート結果にも子育て施設・保育園・子ども目線の道路整備・交通整備について多くの意見があげられていたことを

踏まえると、中身の充実は大前提であると考え。

4. 瀬戸市の「地域性」と「自然」を生かす取組みの推進

公園や児童館など子どもの遊び場についてのマイナス意見が多く寄せられていた。近隣市町村には大きな公園（森林公園、モリコロパークなど）や各地区に児童館が配置されている市が多いため、このような意見が寄せられたと考えられる。瀬戸市の良いところに挙がっていた「地域」の特性を活かし、地域交流センター内に子どもが自由に遊べる場所を作るなどの取組みを行うことが瀬戸市で実施する上で効果のある取組みだと思う。また、「自然」についての良い意見も多かったため、自然のなかで遊べる施設（岩屋堂、野外活動センター、ねむの森）をより使いやすく改修する必要があると考える。